

科目	周術期に必要な技術				
時間数	1 単位 30 時間	授業方法	講義、演習	授業時期	2 年
講師名	③伊藤純子 ③弓山彩子 ③吉岡淳志 補助(③河本さやか)				
実務経験	③看護師(医療機関)				
ねらい	周術期患者の事例を通して、急性期患者や周術期にある人の看護に必要な技術を学ぶ。				
目標	基本原則に照らして援助技術を実施することができる。				
授業計画					
回	内容				
1	手術時手洗い及び滅菌ガウンテクニック、手術体位				
2	手術室での演習				
3	手術室での演習				
4	点滴・ドレーン類を留置している患者の寝衣交換				
5、6	演習				
7	創傷処置、ドレーン類挿入部位の処置				
8、9	演習				
10	医療機器の操作・管理(人工呼吸器)				
11	" (心電図モニター、輸液ポンプ、シリンジポンプ)				
12	事例を用いて、フィジカルアセスメント、監視モニターの装着と測定、聴診器を使つての測定				
13、14	演習				
15	まとめ				
教科外	BLS 講習				
評価方法	その時間数の 3 分の 2 以上の出席者に限り受験資格を与える。 筆記試験 60%、演習レポート 40%を総合して評価する 60 点以上を及第点とする。				
教科書	臨床外科看護総論: 医学書院 急性期実習に使える! 周術期看護せんぶガイド: 照林社 基礎看護学③基礎看護技術 II : 医学書院 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 第 3 版: 医学書院				